

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	資源循環・廃棄物処理、放射性物質の動態という危機管理、サステイナブルな復興にとって極めて重要な基礎技術開発を着実に進めている。	プログラムにおける取組について評価いただき有難うございます。ご期待に沿えるよう、開発する技術やシステムを地域関係者のニーズを踏まえ如何に実装の道筋を作っていくかという取組にも今後注力していく予定です。
	発電施設の設計についての具体的な研究結果の提供、ネットワーク新技術を用いた情報解析システムの構築、地域のスマート化など、具体的に社会貢献できるプロジェクトを幅広く進めている。	
今後への期待など	今後、災害が激甚化していく中で、本研究プログラムの重要性はますます高まる。災害環境学という新分野の早期の確立が期待される。	災害環境学の確立に向けてご期待に沿えるよう鋭意取り組みます。
	災害環境研究プログラムと基礎・基盤的取組の災害環境分野との切り分けについて整理の必要性を感じた。	基礎・基盤的取組との切り分けについては、互いの違いと関係性をより分かり易く示す等、一層工夫いたします。
	将来に向けての環境創生に関する研究では、ポテンシャルの研究とともに、社会実装するうえでの課題や障害を抽出して織り込んでいってはどうか。	環境創生ではポテンシャル評価と平行して、国内の先行事例調査より地域づくりの中で技術を導入するプロセスに関する情報を収集してきました。次年度からは、それらを統合して浜通り地域において社会実装する上での課題や障害を抽出して、具体の施策提案を検討します。
	福島の被災地域の復興を念頭に置いた研究とより一般的な災害対応の研究の連携がより見えやすくなるとよい。	緊急時の化学物質の管理等について、福島での知見も反映させてその後の安全な暮らしの確保・予防的な観点に基づいた被災地での継続的な調査体制のあり方を検討する等、福島の研究とより一般的な災害対応の研究の連携を一層深めるとともに、その見せ方についても出来るだけ工夫します。
	様々な環境技術や再生可能エネルギーの研究の社会実装という点を考慮するならば、早い段階での、被災地や住民との丁寧な意見交換が必要である。	ステークホルダーの洗い出しやニーズの分析等を基に、出来るだけ早く研究成果の社会実装に係る対話の場を創出いたします。